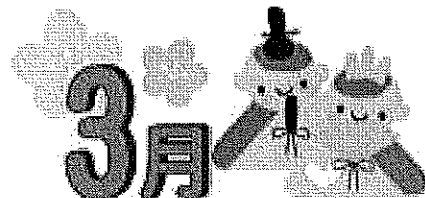


寒さも緩む季節になりました。あちこちで、かわいらしい花が咲いていますね。身近な場所で、また少し遠出するなどして季節を感じてみましょう。

今月は119番の利用についての記事です。今一度、救急車の利用方法を確認してみませんか？



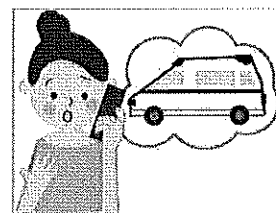
救急車を呼ぶ前に...

～利用者の半数が軽症～

私たちが急病になったり、急なケガをしたりしたときに頼りになるのが救急車ですが、この所、救急車を利用する人が増える傾向にあります。平成25年は534万117人(全国)で前の年より9万人近く増え、過去最高となりました。このうち、生命の危険が強い重症が8.9%、生命の危険はないものの、入院が必要な中等症が39.5%でした。最も多かったのが、入院の必要がない軽傷で全体の49.9%でした。

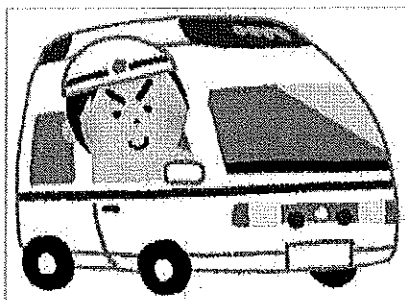
救急車で運ばれた人の半数近い人が、帰りは自分で帰ったことになります。

救急車の到着時間はこの10年程で2分以上遅くなりました。現場近くの救急車が出動していて、やむなく遠い消防署から駆けつけるケースが増えています。



平成26年 救急車を呼んだ理由(東京消防庁「消防に関する世論調査」より)

- 1位 自分で歩ける状態ではなかった
- 2位 生命の危険があったと思った
- 3位 交通事故だったから
- 4位 夜間・休日で診察時間外だった
- 5位 どの病院に行けばよいかわからなかった
- 6位 病院へ連れて行ってくれる人がいなかった
- 7位 救急車で病院に行ったほうが優先的に診てくれると思った
- 8位 交通手段がなかった



多かったのはやむにやまれず救急車を利用した人でしたが、救急車を呼んだほうがいいかどうか判断できなかつたり、医療機関の情報がなかつたりする人が多いのです。東京消防庁ではそのような人の為に

電話番号#7119 救急相談センター

を開設しています。迷った時にはまず電話で相談してください！

東京消防庁の相談センターには、昨年33万865件の相談があり、救急車の出動はそのうち1万8,043件(約5%)でした。

救急相談センターにはどんな相談があったのでしょうか・・・

- 20 歳代 男性
職場で急に頭痛がし、物の見え方がおかしくなったと会社の同僚から電話がありました。看護師が詳しく症状等を聞き、緊急性が高いと判断して救急車が出動、医療機関で脳梗塞の診断を受けました。
- 10 ヶ月 男の子
母親から熱いミルクを太ももにこぼしてやけどをしたと相談がありました。症状を聞くと水ぶくれはなく肌が赤くなっているということで、近くの皮膚科のある医療機関を 3 件紹介しました。

★ 適切な対応を教えてもらえると安心ですね。



◆ 実際にあった事例から救急車の要請について考えてみましょう。

- 20 歳代 男性
ドアに指を挟み爪がはがれたと救急車の要請がありました。救急車が駆けつけてみるとけがは爪の先がわずかにはがただけで出血も止まっていた。救急隊員は軽傷と判断し、近くの医療機関を紹介し自分で行くように促しました。
- 60 歳代 女性
今日、病院に入院する予定で、タクシーで行くとお金がかかるので来て欲しいと救急車の要請がありました。中には日にちと時間を指定して救急車の予約をしようとする人もいるということです。
- 一人暮らしの高齢者
夜中にトイレに行く為に立ち上がろうとしてベッドから落ち、自分で立ち上がれなくなり 119 番通報をしました。
- 70 歳代 女性
夜中に眠れなくて、誰かに話を聞いてほしくて 119 番通報をしました。
- 若いお母さん
幼い子供の病気やケガの対処の仕方がわからなくて 119 番通報をしました。

救急要請が増える大きな背景にあるのは社会の高齢化と核家族化の進行だとみられています。

全国で救急車を利用した人の半数以上が 65 歳以上の高齢者です。高齢者はケガや病気が悪化しやすい傾向がありますし、高齢者の独り暮らしや高齢者だけの世帯も増えています。その為何らかのサポートを求め、救急要請をしてしまいます。

本当に必要な人に救急車を使ってもらおうよう、救急要請から見えてくる、困っている人の支援にも目を向けていく必要があるようです。

